



(参考仮訳)

プレスリリース No.14/523
即時解禁
2014年11月18日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF、「特別データ公表基準プラス」を立ち上げ

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、IMFの「データ基準イニシアティブ」の最新版の「特別データ公表基準 (SDDS) プラス」を遵守し、経済と金融の統計データのより高い基準に正式にコミットするとして9カ国の発表を歓迎した。ワシントン DC で開催されている「第2回 IMF 統計フォーラム」で演説を行ったラガルド専務理事は「こうした国々からの IMF の『データ基準イニシアティブ』への支援を歓迎するとともに、他の国々も次いで参加することを期待している」と述べた。

今後90日間、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、フィリピン、ポルトガル、スペイン、スウェーデン及びアメリカは、金融部門のリスク、国境を越える金融の連関性、及びこうした国や地域のショックへの脆弱性の理解の深化を促す、一段と包括的で国際的に比較可能なデータを公表することになる。

この措置とともに、これらすべての国の当局が透明性への力強いコミットメントを強調した。スウェーデンリクスバンクのステファン・イングベス総裁は「『SDDS プラス』の遵守は、開放性と透明性及び国際的に比較可能な質の高い統計の重要性に対するスウェーデンの理解と合致する。大規模な金融部門を有しているという事実から、スウェーデンが、『SDDS プラス』の遵守というシステム上重要な国々に対する IMF の提言を受け入れることは、自然なことである」と述べた。

この発表は、IMFの「データ基準イニシアティブ」の強化・補完のために2012年に創設された「SDDS プラス」の正式な立ち上げを迎え行われた。これは、SDDSを基盤にしたもので、経済及び金融の統合が進むなか、包括的でタイムリーかつ入手が容易で信頼できる経済・金融の統計データの公表で、加盟国を支援することを目的としている。

「データ基準イニシアティブ」は、1990年代半ばに、加盟国のデータの透明性の向上と健全な統計システムの開発の促進のために導入された。情報不足が影響したと考えられた1990年代半ばの金融危機そして2000年代後半の金融危機で再度、データ基準の必要性が浮き彫りとなった。「データ基準イニシアティブ」には、「特別データ公表基準（SDDS）」及び「一般データ公表システム（GDDS）」も含まれる。データ基準イニシアティブの詳細な情報は、www.dsbb.imf.orgの「Dissemination Standards Bulletin Board」で入手可能となっている。